

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間: 2014 年 4 月 ~ 2015 年 3 月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP 等で公表  
します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満  
たないもの、報告書が 2 年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧  
告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名           尼崎市立成良中学校            
種別  保育園・幼稚園       小学校       小中一貫教育  
       中学校                       高等学校       中高一貫教育  
       教員養成                       技術/職業教育  
       特別支援学校               その他 (                      )  
住所           〒660-0805            
                尼崎市西長洲町2丁目33-22            
E-mail :           j01-kyoto@nd.ama-net.ed.jp            
Website :           http://www.ama-net.ed.jp/school/j01/            
児童生徒数 : 男子 212名      女子 215名      合計 427名  
                    児童・生徒の年齢 12歳~15歳

2. 担当者  ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか (                      )

## 4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

平成26年度 尼崎市立成良中学校 ESDの取り組み

### 【活動のねらい】

命の尊さと命のつながりを学び、自分たちの住む尼崎に豊かな自然環境を取り戻すため、主体的に取り組む生徒を育成する。

### 【活動内容】

#### 1 環境教育

学校教育を通じて生徒が自分たちの生きる環境を知り、地域特性に応じた学習活動から自分たちが生きる環境を改善しようとする心と態度を育むことは極めて重要である。生徒の主体的な活動から持続可能な地域づくりへ発展させるために、本校では、尼崎港や運河の過剰な栄養塩で繁殖した藻類や貝類などの生物を、死んでヘドロ化する前に取り上げ、堆肥の材料として作物栽培に利用し、循環型社会の構築につながる研究実践に取り組んでいる。

#### (1) 尼崎運河の水質浄化活動

7月18日(金)大阪湾フェニックスセンター、NPO団体と連携して行なってきた大阪湾での海藻育成実験の結果を踏まえ、栄養塩の吸収・固定に用いる海藻としてワカメを選定し、尼崎港で栽培を行なった。

作物栽培を通して循環型社会の構築について学ぶ教育プログラムの完成を目的として、ワカメを育てて海の汚れの元となるチッソやリンを吸収し、枯葉や枯草と混ぜ合わせて堆肥を作り、菜の花の栽培に利用した。

また、パドルボードに乗って、運河のごみ回収を行った。

#### (2) 2014春の花と緑のフェスティバル

4月29日(火)尼崎市西公園にて、尼崎市公園緑化協会と連携して、2014年春の花と緑のフェスティバルに参加して、緑を増やして、町の環境改善を進めるためにブースを出展した。

#### (3) 21世紀の森作り

6月～9月にかけて、21世紀の森作りのために、下草を刈ったり、苗を植えたりした。また、森の成長の調査をして環境改善の方法について活動を通して学習した。

- (4) ラブリバー活動  
7月1日(火)と12月5日(金)、学校近くの庄下川で清掃活動とプランターを設置する活動を行い、地域の環境美化に取り組んだ。
- (5) 運河の花壇作り  
7月13日(日) 尼崎運河で、花壇作りに取り組んだ。
- (6) 菜の花活動  
11月9日(日) 尼崎港で回収した海藻類を堆肥にして、のびのび公園に菜の花を育てることに取り組んだ。
- (7) 命の教育(妊婦体験)  
12月4日(木) 助産婦を招き、生命誕生の神秘を知り、3kgの赤ちゃんを抱いて妊婦体験をした。
- (8) ソーラーカー体験  
11月20日(木) 芦屋大学の協力を得て、ソーラーカーに試乗し、環境に優しいエネルギーについて学んだ。
- (9) 牛乳パック回収  
牛乳パックを回収して、それをトイレトペーパーに交換している。
- (10) ペットボトルのキャップ回収  
ペットボトルのキャップを回収して、CO2の削減に貢献している。

## 2 防災教育

- (1) 活動のねらい  
阪神・淡路大震災から20年という節目の年に、震災から得た貴重な体験を語り継ぎ、それを将来の災害への備えとして日常的な取り組みの中に生かしていけるように、生徒の防災意識を高める。
- (2) 概要
  - 1. 17は忘れない～防災セレモニー～
    - 1. 黙祷
    - 2. スライドショー鑑賞 : 尼崎市消防署作 「東日本大震災の記録」
    - 3. 本校教諭の講話(阪神・淡路大震災当時の写真を用いた解説を含む)
    - 4. 各教室へ移動 : 担任より資料配布、資料活用の説明。  
(各家庭でもよく話をするように指導)

資料：保護者への依頼文、『1.17 は忘れない～阪神・淡路大震災から20年～』、『命を守れ！あまっ子災害対応リーフレット』

(3) 内容

尼崎市消防署で作製された「東日本大震災の記録」のスライドショーは、東日本大震災が発生した当時、宮城県気仙沼市へ派遣され活動された記録で、初めて目にする写真が多く、BGMとメッセージが加えられた作品で、阪神・淡路大震災の写真も含まれており、生徒は、とても真剣に鑑賞をしていた。

久下教諭の講話も、阪神・淡路大震災発生当時の体験談とその後の生活の様子を、スライドショーと合わせて、わかりやすい講話で、熱心に話を聞いていた。大震災を体験していない生徒にとって、震災がもたらす被害の大きさや命の重みを実感できた。

課題としては、前日に実施した「地震と津波による避難訓練」の事前指導と講演会の位置づけを明確にして、来年度以降は講師の選定を早く計画する必要がある。

(4) 自分たちの町を知る学習活動

尼崎市南部の海に近い校区の特徴（地下水の汲み上げすぎによる地盤沈下で、町の3分の1が海拔0メートル地帯となっている）、津波による被害を知るために、尼崎閘門（通称：尼ロック）を訪問し、現地での学習会を行うことで、日頃の災害に備える意識を高めることができた。

3 食育（総合的な学習の時間と技術・家庭科の連携）

【収穫祭】 ジャガイモの栽培から調理まで

(1) 日時 平成26年7月15日（火）・・・1年生

7月16日（水）・・・2年生

7月17日（木）・・・3年生

(2) 目的 ・技術・家庭と連携し食育を通して生きる喜び、命の尊さや感謝の心を学ぶ。

・命の循環について学ぶ。

・協力することの大切さを学ぶ。

(3) 場所 調理室

(4) 内容 カレー作り

(5) 服装 体操服（体育の授業と同様）、下はジャージ

(6) 持ち物 タオル、水筒、カレー用ご飯、スプーン、ふきん、エプロン三角巾

(7) カレーを調理する

収穫祭は、技術科の授業で栽培・収穫したジャガイモを使用し、家庭科の調理実習というかたちで生徒全員で班ごとにカレーを調理する。土作りから手がけた無農薬、有機肥料で栽培した安全な食材である。また、1年

生は小学6年生の時中学校訪問し植えた種いもから育てており、小中連携の活動にもなっている。

収穫祭当日は保護者の方々の調理への参加、手助けもあって盛大で楽しい学校行事となっている。また、環境教育の関係者や地域の方も招待し、一緒にカレーライスを食べる。

(8) 「循環」について学ぶ

今回の取り組みで尼崎の海の栄養を堆肥にして、食物に取り込み食することで、循環型社会のモデルケースとなった。成良中学校では、ワカメ堆肥や海の生物を使って堆肥を作り、混ぜ込んだ土を使用することで多くの作物栽培に活用できるようになっている。

4 伝統文化の「ほんもの」に出会う体験（生徒、地域、保護者をつなぐ活動）

【平成26年度 邦楽鑑賞会】

邦楽の演奏に親しむことで、自然と一体化した生活の中で生まれ、継承されてきた日本の伝統や文化を守り、継承する態度を育むことを目的に邦楽鑑賞会を開催した。当日は、保護者、地域の方も招待した。生徒が「ほんもの」に出会う体験をして平成23年度から行っている。

(1) 日 時：平成26年11月6日（木）

1年 4校時 11：50～12：40

2年 5校時 13：20～14：10

3年 6校時 14：20～15：10

(2) 場 所：本校3階多目的ホール

(3) 内 容：和楽器鑑賞

(4) 演奏者：「和楽器ユニット おとぎ」

筑前琵琶・胡弓・箏・尺八などの四人の演奏家によって結成されたユニット。優美な音色で様々な情感に訴える和楽器の魅力を、現代人にも親しみやすいアレンジで表現するスタイルは、若者からシニアまでファン層が幅広い。

関西で数少ないプロの若手邦楽ユニットとして、学校公演、各種イベント出演、ホールやライブハウスでのコンサートなど、その活動領域は多岐にわたる。

内子座、八千代座、弁天座など、近年は芝居小屋での公演にも力を入れているほか、関西でも「風雅草紙コンサート」と題した公演を2011年より毎年開催している。

## 5 日本の伝統音楽の継承（尼崎市内の中学校をつなぐ取り組み）

### （1）目的

我が国の伝統音楽について体験を通して学び、伝統と文化を守り、継承する心と態度を育む。

### （2）具体的な取り組みと内容

本校の音楽科（坪井美津子）が中心となって、尼崎市内中学校合同邦楽合奏団を結成し、演奏活動を通じて身につけた日本の伝統音楽に対する知識や技能を地域貢献につなげる活動を行った。

### （3）練習会・講習会の実施

#### ①「尼崎市内中学校合同邦楽合奏団」

##### 合同練習会

尼崎市立成良中学校を拠点校として、夏休み期間中に、個別練習、学校別練習（各校2回）、地区別練習（4回）、全体練習（5回）を実施したことで、生徒の邦楽への興味・関心や演奏技術が向上した。

#### ②指導者実技研修会

本校を会場に、生田流新絃社二代家元の狩谷春樹氏を講師に招いて研修会を開催した。講師による指導によって、曲のイメージに合った奏法や音色の表現を学ぶことができた。

#### ③邦楽鑑賞会・講習会の開催

本校を会場に、尼崎市内中学校音楽科、尼崎市内中学校合同邦楽合奏団を対象に、生田流新絃社二代家元の狩谷春樹氏、折本大人樹氏を招き、箏と三味線の演奏による鑑賞会を開催した。

鑑賞会後の講習会では、演奏に対する心構えや、演奏方法について指導を受けることができた。この指導によって、その後の生徒の取り組みが充実し、より美しい音色で演奏できるようになった。

### （4）尼崎市内中学校合同邦楽合奏団の発表会・音楽会への参加

①平成26年10月3日に開催された、『兵庫県中学校総合文化祭、音楽部門・伝統文化部門発表会』に参加し、これまで練習に取り組んできた、「さくらメドレー」（狩谷春樹編曲）を演奏した。大きな発表会への参加によって、生徒に合奏の喜びを体験させ、自信と達成感を味わわせることができた。

②平成26年10月30日に開催された、『第65回尼崎市中学校・高等学校合同音楽会』に参加し、「さくらメドレー」（狩谷春樹編曲）を演奏した。

(5) 成果

平成26年10月3日

『兵庫県中学校総合文化祭』において「兵庫県知事賞」を受賞した。

【活動発表】

平成26年

10月18日

『近畿ブロック・ユネスコ活動研究会』で、本校のESDの取り組みを発表した。

11月11日

『兵庫県防災フォーラム』で、本校の防災の取り組みについてポスターセッションを行った。

11月15日

尼崎ユネスコ協会と連携して『ユネスコセミナー』を開催し、ESDの取り組みと成果を発表した。

平成27年

1月30日

『ESD・教育ツーリズムワークショップ』でESDの取り組みを発表した。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（）